

# 『天津風』のレギオンマ スター

光車

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これは、ブレインバーストの最大勢力レギオンの物語。

# 目次

零話	設定紹介	1
一話	東京に転校!!?	6
二話	レギオンの最上層部	10



# 零話 設定紹介

俺は神楽坂 天羅。

バーストリンカーだ。

俺は、かなりのバーストリンカーを下に入れている。

ざっと三割程。

そして、俺のレギオンを利用しているのも入れると、六割を超える。

俺のレギオンは、『天津風』。

弱小レギオン、ではない。

むしろ強い。

どれくらいかと言うと、他のレギオン、それこそ七大レギオンすらも俺達『天津風』を凌駕する事はできない。

何故なら、俺達は東京以外の殆どを支配しているのだから。

そして、俺達のレギオンが人気な理由。

それは、たとえば自分達の領土で他のレギオンの人がエネミーを狩っていたとしても、何も言わない事だ。

まあ、異世界小説の冒険者ギルドのようなものだ。

B Pでアイテムの売り買いなどはもちろん、貸し借りもしているのだ。もちろん、銀行のようなものもやっている。

時々持ち逃げもされる

最も、持ち逃げされたら指名手配がかかり、賞金であるB Pにつられてバーストリンカーが血眼になって探すため、そのままなんて事は殆どないが。

ちなみに、時々東京の方へ行つた奴が「不便だった」と言うのはほぼお決まりになっている。

それが例え『天津風』ではなくとも言うのだから恐ろしい。

俺達は、岐阜辺りが拠点、もとい本部だ。

そして、各県にいくつか支部がある。

これらはもちろん全て『天津風』の所有物だ。

……B Pはほとんど俺が払っているが。

俺達が東京以外でブレインバーストをやれている理由。それは、たまたま寄つた時、ブレインバーストが自動インストールされたからだ。

もちろん、一人ではなく、七人も。

だから、こんなにブレインバーストが広がっているのだ。

……それにしても、恐ろしいな。

何故か沖繩と東京以外の県にも、合計1000人程にブレインバーストが広がっていたのだから。

いつの間にもそこまでなった。

つい最近では、いろんな県で、東京と同じ景色が広がり始めた。

もちろん景観ではなく、ブレインバーストのマッチングリストや無制限フィールドのことだが。

さて、俺のレギオンの紹介はしたし、今度は俺のアバターを紹介させてもらいますか。

俺のアバターは、ダーク・モーメントだ。

レベルは8。

安全圏に入れておく事が重要だからだ。

一度はレベル9まで上がったが、ルールを知ってから、セイリユウのレベルドレインで下げた。

以降、戦う方のバーストリンカーならともかく、そうでないバーストリンカーにはレベル9まで上げる事を禁止してある。

アビリティは、《絶対命中》と《断絶》だ。

《絶対命中》は、視界に入っているものに絶対に命中させるアビリティ。

そして、デイストネクション《断絶》は、空間を切る能力だ。

レベル上げは、基本エネミー狩りで手に入れるBPでやる。

新人はPvPで上げるが、そのポイントももつぱらエネミー狩りから来ている。

そして、PvPというのは、一種の娯楽だ。

俺のホームの一つに闘技場みたいなものもある。

そこで、戦ったりしてやっているのだ。

後は、年に数回あるバトルロイヤルとかもある。

参加費は500〜2000BP。

高いが、実際にはこのくらい簡単に手に入るのだ。

一年や二年やれば、大体は10000BPは入手出来る。

例えば、来たばかりの時ならBPなんぞ溜まってないが、普通にやってれば手に入る。

どうしても参加したいなら、『天津風』で借りればいいし。

尚、BPの譲渡はダイヤモンド・クラフティングのアビリティアイテムクリエイト魔具生成による、BP

譲渡機を使用している。使用条件はアビリティ、アイテム両方ともに色々ある。

ちなみに、参加条件は、共通しているのはレベル8以下、という事だ。

レベル9で戦わせると、ポイントが全損してしまうから。

もちろん、殆どのバーストリンカーがレベル8で止めているが。



エネミーバトロイヤルもある。  
通称E B R。

これは、エネミー同士で戦わせ、賭けて遊ぶものだ。  
意外にもやれる。

そして大戦争というものもある。

これはP v P。

二組に分かれて戦う戦争だ。

これで無茶苦茶楽しむ奴らが多い。

これに参加するためには保持BP1000越えと言う制限がある上に、レベルも7以上でなければ参加不可。

それもこれも全損を防ぐための処置である。

まあ、みんな楽しんでくれて嬉しいだろう。

ここからは、本編だ。

楽しんでくれ。

## 一話 東京に転校!?!?

俺、神楽坂 天羅は、東京の梅郷中に転校した。

家の仕事の関係で、引越越したんだが、ひとつだけ問題がある。

ブレイン・バーストの仲間と合流する事に時間がかかる!

……って、まあそこまで重要なことじゃないんだけど。

実際、ニューロリンカーはあるアプリによつて、直結と同じ事が出来る様になつてるしな。

まあ、それは置いておくとして、俺は梅郷中に転校した。

……東京と言うだけで嫌なのだが。

あつ、でも、帝城には簡単に行けるか。

他にも神獣級エネミーが大量にいるそうだしな。

メリツトはあるな。

よし、頑張つて行こう。

\*\*\*

「はじめまして、神楽坂 天羅と言います。これから宜しくお願いします」

学校の自己紹介はこんな感じで済ませるのが無難だろう。  
下手な冒険をして、恥を搔くのは馬鹿のやる事だ。しかも、冒険の意味もないところ  
で。

\*\*\*

ふう、終わった。

今、俺は屋上にいる。

ここで、俺はこの学校にいるバーストリンカーを確認する。

「バースト・リンク」

俺はマツチングリストを開く。

すると、

Black Lotus Lv9

Silver Crow Lv5

Cyan Pile Lv5

Lime Bell Lv5

と出た。

ブラック・ロータス……？

どっかで聞いたことのある様な……。

……あ。

黒の王だ。

ここ、黒の王の本拠地？

まあいいや。

うーん。

どうしよ。

……まあいいや。

……イヤ、よくない。

むしろまずい。

……マジでどうしよ(切実)。

……気分転換に校内ネットに接続しよ。

「バス・アウト……ダイレクト・リンク」

\*\*\*

ふう、スッキリした〜!

運動系のゲームやって、ストレス発散した。

つたく、どうしよ。

……適当にあいつらに言うか？

「まあいいや。バースト・リンク」  
初期加速世界フルワールドに行つて、ブラック・ロータスに対戦を申し込む。

\*\*\*

「……お前か、私に乱入したのは。」

やつと来てくれたか、ブラック・ロータス。

「ああ、そうだ。だが、目的は戦う事ではなく、俺がいる事を知らせる為だ。なんかの拍子で気付かれて、問い詰められたりしたら面倒だからな。ま、俺のリアルネームは神楽坂 天羅。2ーCだ。よろしく頼む」

「……は？」

まあ、いきなりそう言われても困るよな。

「俺はお前らと戦う気は一切無いから安心しろ」

「そうか……。つて、おい待て！」

ブラック・ロータスも納得した様だし、自爆！

\*\*\*

これでひとまず安心かな？

いきなり対戦を挑まれる事は無くなった筈。

これでひとまずOK、かな？

## 二話 レギオンの最上層部

とある日の放課後。

俺は早速BB回線を経由したアプリ、アクセルロビーを展開する。

そして、天津風最高位プレイヤーのみが使えるコマンドを唱える。

『アクセル・ハイリンク』

\*\*\*

「あ、マスターがきたよ〜」

そう言ってくるのは《Hiwa caustive》。

メンバーの中で、唯一自分で戦わない人だ。

戦い方は、神獣級エネミーを使役すると言う異質な方法。

唯一の問題点と言えば、タイムにスペックを出し過ぎて、ステータスが無茶苦茶低い点である。

「さて、では会議を始めましょうか」

仕切るのはこのレギオンの中枢の役割をしている、《Diamond

Crafting》。

こいつがいなければここまで来ることはできなかった。

実力もさることながら、組織の頭脳としてもとても素晴らしい人だ。

アビリティが強化外装を作成………もといアイテムを作成するのに向きすぎている為、基本戦わずにアイテムを作っている。

技術も有り、ハッキングもお手の物。

ちなみにこのアクセルロビーだが、こいつがBBサーバーにハッキングして作った。

「まず、次の大戦争のコストですが………」

「今は予定の3/4は溜まっているわ」

今答えたのは《Car<sup>カー</sup>mine<sup>マイン</sup>spa<sup>スパ</sup>rk<sup>ク</sup>》。

完全遠距離攻撃型で、この中でも名前だけで簡単に戦法を割り出せるキャラクターだ。

放電による全体攻撃で基本的に戦う人だ。

決してパープル・ソーンと同じような奴ではない。

「3/4ですか。なら足りませぬ。では、次にトーナメント戦の方は……」

「そちらについても問題ない。既にポイントは完全に溜まっている」

今のは《E<sup>エ</sup>cr<sup>ック</sup>u<sup>ウ</sup>spi<sup>スピ</sup>der<sup>ダー</sup>》。

ここの中でとても特殊なキャラクターである。

どこぞの蜘蛛人形みたいなものだ。

中に小さい蜘蛛がおり、それが人形を操っている。

なので、HPが極端に少ない代わりに、ダメージをくらいにくい。

胸にある2cm程の蜘蛛に当てなければいけないのだから。

ちなみに見た目は観戦用アバターと同じだ。

防御は意外と高い。

「そうですか。では、後は……」

「EBRの方のエネミーが減少してきたぞ。そろそろ乱獲しなきゃならん」

これは《Bellflower Archer》の発言だ。

圧倒的な精度の弓を使い、戦う。

着弾したら爆発したり貫通したり、何が起こるかわからない超厄介な奴である。

強さは俺に続く2位。

ちなみに俺の《絶対命中》ですら貫通してしまう強さである。

無茶苦茶強い。

アバターのな素養では余り強くなさそうなのを、本人のスペックで超底上げしている

奴である。

このメンバーだが、全員が神獣級エネミーを複数体相手して倒せると言う化け物揃い



だ。

一個下の上層部でも、巨獣級が限界だろう。

同時に相手取るのは。

それだけ実力は乖離している。

神獣級を狩るのは基本俺たちのみ。

他は出来て邪神級。

それも基本レイド組んで残り数人って所でようやくやく倒せるだからねえ。

実力差はレベルが幾ら同じであろうと顕著である。

「そうですか。なら、他には有りませんか？」

「はいはい。支部がやばい事になってまーす」

……………は？